

ワークショップイベント

東アジア文芸資料の 新たな宝庫

ソウル大学所蔵合巻コレクション
の紹介と
学術的活用の可能性

2026年1月27日（火）

13:00～14:50

於 神戸大学文学部 B331
参加無料・申込不要



画像：『修紫田舎源氏』初編上(韓国国立図書館所蔵)出典: 韓国国立図書館データベース, <https://hdl.handle.net/2027/keio.10811672514>

講師 | 金 美眞（キム ミジン）氏

大韓民国のソウル大学校中央図書館には、日本国内では見ることのできない稀少書を含む約800点もの合巻（19世紀に江戸で刊行された絵本）が所蔵されており、その貴重なコレクションは、近世文学研究・古典籍の調査・活用の重要な拠点として長らく注目されてきました。

本催しでは、柳亭種彦の合巻や考証を中心に日本近世文学の研究を行い、ソウル大学合巻コレクションの調査にも携わっておられる金美眞先生をお招きし、金先生のご研究についてのお話や、ソウル大学所蔵の合巻コレクションのご紹介とその整理・調査や活用についてのお話をうかがいます。

主催：神戸大学大学院人文学研究科人文学推進インスティテュート

お問い合わせ先：t.arisawa@pony.kobe-u.ac.jp（有澤）

蔚山大学校人文大学日本語日本学科准教授。韓国芸術総合大学世界民族舞踊研究所専任研究員を経て現職に至る。

柳亭種彦の合巻・考証を中心に、江戸の植物・園芸についても研究を行う。著書に『柳亭種彦の合巻の世界：過去を蘇らせる力「考証」』（若草書房、2017）、論文に「失われた端午の節句「印地打」—日本人と朝鮮人のまなざしから考証する」（『好古趣味の歴史』文学通信、2020）等がある。